

『 study at home 編 』

毎日家にいても肝心の勉強が何から手をつけたいのかわからずに時間ばかり過ぎ去っている人がいるかもしれません。今回はそんな人にぴったりの卒業生からの学習アドバイスですが、6月に配布予定の合格体験記（向山では「春秋三年」がタイトル）からの一足早い紹介にもなっています。ぜひ参考にしてください！！

↓ 向山校舎の中庭に咲くチューリップ



皆さんこんにちは！勉強していますか？今から実体験を踏まえて私なりのアドバイスをいくつか紹介したいと思います。勉強について悩んでいる方の手助けになれば幸いです。

まず自分の勉強法について。一つ目は必ず毎日少しでも勉強をすることです。単純かもしれませんがこれが非常に大切です。毎日することにより習慣化されて、勉強が嫌でもできます。実際に、私も教室の席に着くと自然とやる気が出て勉強していたので効果は大きいです。二つ目に合格までの戦略を立てることです。例えば、私は文系科目が壊滅的だったので、センターではあくまで総合点で勝負をして、二次では数学と理科の比重を重くし問題の難易度を分類してどこに時間をかけるかまで戦略をたてていました。もし苦手教科をどうしても克服できなくとも、合格最低点を取りさえすればいいのですから、こういった対策は必ず必要です。また、このような対策で使えるのがメモです。付箋等を書き出してみると、頭の中が整理されて、内容を忘れても確認が容易になります。

三つ目は共通テスト・二次対策です。共通テスト対策の方は、先取りをするために夏休みが明けるとセンター10年分の過去問に取り組みました。次からはセンターではなく、共通テストで過去問はありませんが、模擬問題をやっておくといいと思います。まだ基礎があまりできていないとってしない人もいますが、雰囲気だけでも確認した方がいいです。二次対策は大学によって異なりますが、東北大のように二次配点が高い場合は11月頃までには二次の過去問をして、傾向を少しでも掴んでいた方がいいと思います。共通テスト後はひたすら二次に集中してください。十分な過去問研究は一度やっただけでは傾向が掴めず、足りないかもしれません。二度、三度取り組んで万全の準備をしてください。

次に受験中の私を振り返ってとても後悔していることを話します。それは英語をできるだけ早くに“できる”ようにすべきだったことです。高2の後期になると主要三教科だけではなく理社も本格的に勉強します。ただでさえ量が多い理社をして英語にける時間は減りました。その結果、英語の時間は本当にきつい時間で、いつも足を引っ張っていました。ですので、皆さんは勉強の配分を志望校に合わせて、うまく調整して欲しいと思います。

最後に、私は一時期勉強を嫌い、あまり手をつけないときがありました。しかし、それでも少しでも勉強していたため、その状態が治ったときに支障なく学習を続けることができました。もしかすると皆さんもそのようになる時があるかもしれません。そんな時でも、休養を取りながら諦めずに勉強を続けてみて下さい。きっと報われるときは来ます。皆さんが合格できることを祈っています。

(東北大学工学部1年)

皆さんこんにちは！私からは受験勉強をしていた際の勉強法について紹介します。三年生になってから部活動を引

退するまでは主に基礎を固める勉強を隙間時間にやっていました。英単語や英文法、古文単語などでわからなかったところに付箋を貼り、覚えたら付箋を下げるという勉強法を実践していました。これは一般入試の二次試験までずっと続けていました。部活動が終わって推薦試験の勉強に移るまでの期間は今まで全く手をつけていなかった倫理に取り組みました。倫理はノートを作り、人物の名前の下にキーワードを書くという勉強をしました。すると今までバラバラだった知識が整理され、理解できるようになりました。そして推薦が終わってからは授業で行う演習の徹底的な復習と、日本史、数学のセンター対策用問題集を毎日取り組みました。復習は、なぜそうなるのかを全て説明できるようにし、古文漢文英語は辞書を使いながら全文わかるようにしました。そしてその復習で学んだことを教科で色分けされた付箋に書いてノートに貼っていました（この知識ノートは本当におすすめです。）日本史はまず、歴史がまとまっている漫画を熟読して流れを把握し、一問一答で勉強し、わからなかったところは資料集で確認しイメージを頭に焼き付けるというのを時代ごと一週間で行っていました。数学は毎日三ページずつ解き、自力で解けなかったところに印をつけ、一周したら印のところに戻るといった勉強法でした。この量をこなすのはかなり大変でしたが、週ごとに計画を立て、時間をフル活用すればこなせます。これを冬休み明けまで続けて（お正月休みは倫理と日本史のワークも追加しました）冬休みが明けてからは、学校の演習に加えて家でも演習、そして復習というように切り替えてセンターを迎えました。センター後は授業の演習の復習をし、英単語、英文法、古文単語、古典文法、漢文文法は付箋を貼りながら繰り返し、英文和訳の問題集を一日五ページずつやり、宮城教育大学の過去問を五年分と新潟大学（形式が近いので）の問題を三年分やり、逐一先生方に添削してもらい、添削してもらった答案を見ながら自分なりにどうしてこうなるのかをノートにまとめていました。こんな感じで私の受験勉強が終わりました。（宮城教育大学教育学部 1 年）

私が大学入試について考え始めたのは 3 年生に進級したところです。1・2 年生の頃定期テスト対策以外は全く勉強をしていませんでした。3 年生になってから朝から晩まで受験勉強に励んでいましたが、結果、第一志望の大学には合格出来ず、後期試験で地方の国立大学には合格出来ましたが、浪人することにしました。

現役時の 1 番の失敗は、受験勉強の開始時期です。部活もあり、大変だとは思いますが早く始めることに越したことはありません。第一志望に落ちた時にかなり後悔したので、今すぐ始めるべきだと思います。苦手科目は数学でした。1 年生の内容からやり直し、徹底的に基礎の復習を繰り返し行いました。やはり、苦手は素早く克服すべきです。大半の勉強時間を数学に費やしました。直前期には苦手意識もなくなり焦らずに問題に対処できるようになりました。先生方に添削をしてもらうことができれば、記述力の向上になるので是非添削してもらいましょう。

得意科目は英語でした。英語を苦手と感じている人は多いと思います。英語は言語なので、勉強していてもすぐに結果に反映されるものではないと思います。国語もそうですが、継続して学習するのがいいと思います。読解の問題演習をする前に文法や構文を完璧にすべきです。文法や構文の理解が読解問題の理解にもつながります。単語は休み時間や空いた時間で覚えるのがいいと思います。

夏期については、3 年生にとって 1 番大事な時期だと言われていますが、本当にその通りです。私は文化祭の実行委員会に入っていたので勉強時間があまり取れませんでした。実行委員の仕事がない日は最低でも 1 日 10 時間は勉強をしていました。夏期では主に基礎固めを重視しました。得意な英語は応用問題にも手を付けるようにしていました。地歴や理科基礎のような暗記科目はこの時期に詰め込んでかなりやりこみました。夏期での努力が直前期にもつながるので頑張ってください。

直前期については、主に過去問に取り組んでいました。過去問は 10 年間分を 2 周して傾向を把握し、類題をたくさん解きました。また、難易度が近い他大学の問題にも取り組みました。

受験期の具体的な生活については、部活を引退してからは朝早く自習室に行き勉強をしていました。休み時間のうちに弁当を食べ、昼休みも自習室で勉強をしていました。休日は、開館してから閉館まで塾にこもって勉強をしていました。（北海道大学経済学部 1 年）